

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/06/25

改訂 2025/04/08

## 【Sloop John B】 変更と注意事項

### <曲を通じて>

- ・演奏方針：本番は速めのテンポ★J = 120 くらいで演奏する。

慣れたら、lu lu や la la も余裕持って、跳ねる感じで軽やかに。

ただ、テンポ感は難しい。速めだと走るし、落とすと後半ダレる。頃合いを見つけていく。

- ・曲想：

### <全般事項>

- ・**単語の言葉尻が雑（ブツ切れ）**。音符の長さを保つ意識で丁寧に。**ブレスは短く**。
- ・音の切れ目（13 小節、28 小節以降）で**曲がブツ切れ**ている。気持ちを途切れさせなければ休符（無音）でも曲の流れは止まらない。

- ・**とにかく指揮を見る**。：テンポ、拍のオンビート、3 括弧の終わりなど。

- ・掛け合いが多いので自分のパートを把握するのが大変なと、3 番まである歌詞が大変。

ただ、その掛け合いを楽しむ曲。各パートが我が道を行ってしまうと薄っぺらい感じになる。他のパートの演奏を聴きながら掛け合いの妙（アンサンブル）を意識して。

掛け合いと、リズムのユニゾンセクションのコントラストを意識する。

A メロ（掛け合い）→19 小節の lala のユニゾン

→B メロ（掛け合い）→33 小節のユニゾン →（2 番へ）

- ・複数パートユニゾンの拍は縦を揃える。let us go home など。
- ・テンポアップしたが、しゃべれる速度。単語末尾の子音（on, home, fits, grits・・・）まで丁寧に。
- ・15 小節 B1 4 拍目 #F→ $\flat$ F に訂正。ただし、18, 20 小節は、#F なので下がりすぎない。
- ・31 小節 B1 4 拍目は「 $\flat$ F」に訂正。
- ・32 小節 B2 4 拍目の裏の「F」にリマインドとして記譜上「#」をつけておく。
- ・18 小節 B2 歌詞訂正 「I want go home」→「I wanna go home」

※文法的には、want to となる箇所なのでその省略形とする。

- ・14 小節 B1 歌詞 「me a lone」は誤植。「me a-lone」とする。
- ・T1T2B1 ハミング（Hm）は、音量確保のため、Uh（もしくは Oo）

### <個別事項>

- ・T1 高音域は全力シャウトより、綺麗な軽快さが吉。いい意味で抜く感覚。
- ・5 小節他 曲全体 B2 「Lu」を豊かに響かせる。特に低音域は「る」だと出しづらいと思うので、「Lo」とか「Du」を意識して発音。まどろっこしい音に聞こえるかもしれないが、豊かな響きを優先。  
「Lo」は、「u」を「o」のあごの位置を変えずに唇をつぼむ。「Du」では Lu を意識して柔らかく。
- ・4 小節 B1B2 3 拍目「la」は後ろで切って 4 拍目の「Lu」をきちんと発音する。
- ・7,8 小節 全パート 2 番 broke up は、ブロカーツプ（ブローカッパではない）。
- ・7 と 9 小節 1 拍目は英語の韻を意識（B と me、drunk と trunk、fits と grits）。
- ・10 小節 B1 1 拍目は #F。B F の癖を払拭。ただし、14,15 小節では B F になる。

### ・10 小節 1 番歌詞 T1T2

we で伸ばす「we—did roam」。  
×「we di—d roam」。

### ・10 小節 1 番歌詞 B1B2

we と did は四分音符で均等に刻む。

### ・11 小節 1 番歌詞 B1B2

we で伸ばす「ウィーデイドローム」。  
「ウイデイドローム」ではない。 10 小節 T1T2 と同じこと。

付点 4 分音符・8 分音符 のリズムをきちんと。

※他でもシラブルでつながっている単語は、リズムと音程の維持のため母音を言い直すように歌う。

- ・13～16 小節 全パート 難しい和音進行は、ハーモニーがどう続いているかを理解すれば合う。
- ・14 小節 T2 2 番 3 番 2 拍目の裏「please」は 8 分音符に収める。  
B1 歌詞 「me a lone」は誤植。「me a—lone」とする。リズムは楽譜通り。
- ・16 小節 T2B1 1 拍目で切る。（Hm と Well をつなげない）。
- ・T2 17 小節「B」は、音は取れているがもう少し高目だと明るく響く。
- ・18 小節 T1T2B1 1 拍目は 4 分休符。（17 小節の 8 分休符とはリズムが違っている）。
- ・19-20 小節 全パート 「la la la」は切れよく弾む（ランランに近い感じ。らーらーと流すのはダメ）。

B1 19 小節 la la la は G D G。2 つ目の D は意外に低いので意識して下げる。

- ・21 小節 B1B2 「up」は 4 分音符分の長さをキープ。切ってもよいが寸詰まって突込まないように。

★「hoist」を寸詰まりにせずきちんと喋れば「up」が突っ込まなくなる。

- ・22,24 小節 B2 付点 4 分音符（sails と set.）が短すぎ。オンビートで拍分しっかり伸ばす。
- ・25～27 小節 B2 音の動き（上下）を譜面通りきちんと認識して正しい音程でうたう。

パートソロのつもりで、B2 の響き重厚さでメロディを奏でるように。

- ・29～32 小節 和音の構成は 13～16 小節と同じ、ただし歌い方（部品）は違うので注意。

ここに来ると、パート間がバラバラで一体感がなくなり、音が薄くなる。音楽をつなげて。

- ・33-34 小節 T1 「up」ではなく次の「we」を強調する。そのために、「up」で一回切ってもよい。
- ・35 小節 B2 2 拍目の裏の「B」の音をしっかりと出す。B1 も 2 拍の裏の「G」をしっかりと出す。

そのために、1 拍目の「home」はスパッと切って lu に備える。

- ・35～36 小節 B1B2 lu lu lu 切れよく弾む（ルンルンに近い感じ。るーるーと流すのはダメ）。

2 番 3 番につなぐための間奏の位置づけ。2 番 3 番のノリを決めるのでしっかり。